

Cover Sheet

11002 U.S. PRO

09/892692



## Certified copy of priority document

Title of Invention:

Method of communication used IP address by means of to fix a directory of IP address, even if IP address is not fixed in the network

Name of Inventor: Hiroyuki Sakamoto

Telephon No. : 0467-83-9719

E-Mail: cafe@mars.planet.ne.jp

Certified copy of priority document are 13 sheets hereafter



郵便はがき

253-0021

神奈川県

住所 茅ヶ崎市浜竹4丁目6番31号-403

氏名 坂本 浩之

殿

300046728

### 出願(申請)番号通知

平成12年 8月 8日

特許庁長官

出願(申請)日 平成12年 6月29日 受付日 平成12年 6月30日

整理番号	受付番号	出願(申請)番号
S20001-001	20001250194	特願2000-236274

貴殿から提出された上記書類に出願(申請)番号が付与されたので通知します。

出願人(申請者)

坂本 浩之

郵便番号 100-8915 東京都千代田区霞が関3丁目4番3号

特許庁

【書類名】 特許願

【整理番号】 S 2 0 0 0 1 - 0 0 1

【提出日】 平成 1 2 年 6 月 2 9 日

【あて先】 特許庁長官 近藤 隆彦 殿

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県茅ヶ崎市浜竹 4 丁目 6 番 3 1 号 - 4 0 3

【氏名】 坂本 浩之

【特許出願人】

【識別番号】 3 0 0 0 4 6 7 2 8

【住所又は居所】 神奈川県茅ヶ崎市浜竹 4 丁目 6 番 3 1 号 - 4 0 3

【氏名又は名称】 坂本 浩之

【電話番号】 0 4 6 7 - 8 3 - 9 7 1 9

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【書類名】 明細書

【発明の名称】 I Pアドレス検出方法

【特許請求の範囲】

【請求項1】 コンピュータネットワーク内のクライアントコンピュータ（1、2）から読み出し可能なディスク領域（3）のディレクトリ（32）に各クライアントコンピュータがI Pアドレスを書き込む場所を定義したI Pアドレスの場所のリスト（31）を予め格納しておき、各クライアントコンピュータのアプリケーションプログラムがネットワークに接続したとき、自身のI Pアドレス（41、51）をI Pアドレスの場所のリスト（31）に定義されている自クライアントコンピュータ用の書き込み先と同一、かつ他のクライアントコンピュータから読み出すことのできるディレクトリ（42、52）に書き込むことにより、他のクライアントコンピュータがI Pアドレスの場所のリスト（31）から自クライアントコンピュータのI Pアドレスを検出できる方法を提供し、自らもI Pアドレスの場所のリスト（31）を読み出すことで他のクライアントコンピュータのI Pアドレスを検出して各クライアントコンピュータの利用者が接続したい相手とI Pアドレスを使って接続、データ通信ができるようにする方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【本発明の技術分野】

本発明は、コンピュータネットワークにおけるI Pアドレスを利用したデータ通信に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来、DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）サーバーなどからその都度異なるI Pアドレスが割り当てられるクライアントコンピュータが他のクライアントコンピュータとI Pアドレスを利用したデータ通信を行う場合は、I Pアドレスを割り当てられた後に各クライアントコンピュータは一つの管理サーバーコンピュータに接続することにより、この管理サーバーが一方のクライアントコンピュータから来た情報を他方のクラ

クライアントコンピュータへデータを渡す方法でクライアントコンピュータ同士のデータ通信を可能にしている。

【０００３】

または、クライアントコンピュータがＩＰアドレスを割り当てられた後に管理サーバーコンピュータに接続し、このサーバーが自分に接続しているクライアントコンピュータのＩＰアドレスの情報を各クライアントコンピュータに渡すことで各クライアントコンピュータ間のデータ通信を可能にしている。

【０００４】

または、クライアントコンピュータがＩＰアドレスを割り当てられた後、人間が電話などの手段を用いて自分のコンピュータのＩＰアドレスを相手に伝えることでＩＰアドレスを使ったクライアントコンピュータ同士のデータ通信を行っている。

【０００５】

【発明が解決しようとする課題】

従来の方法では、ＩＰアドレスが固定でないクライアントコンピュータをネットワーク内でクライアントコンピュータ同士のデータ通信を可能にするためには、クライアントコンピュータ間のデータ通信のための専用サーバーコンピュータを用意するか、利用者が電話等を利用して相手にＩＰアドレスを教える必要がある。

【０００６】

専用のサーバーコンピュータを用意する方法は、サーバーコンピュータを常時ネットワークに接続して稼動しておく必要があるため、サーバーの保守などに多くの費用と作業等の負担を強いられる。

【０００７】

また、クライアントコンピュータの利用者が電話で相手に自分のＩＰアドレスを教える方法では、１回線しか使うことのできない電話回線を利用してインターネットなどのネットワークを利用している場合は、人間が電話を利用することができないため、ネットワークに接続した後に割り当てられるＩＰアドレスを相手に教えることができないという問題がある。

**【０００８】**

また、電話を２回線以上使用できる環境においてインターネットなどのネットワークを利用している場合であっても、データ通信したい相手の電話番号を知らない場合は、電話でのやりとりは不可能であり、電話で相手にＩＰアドレスを教える方法は限られた相手とのデータ通信にしか使うことができないという問題もある。

**【０００９】****【課題を解決する手段】**

ネットワーク内の各クライアントコンピュータが自身のＩＰアドレスを書き込むディスク領域の場所を定義したＩＰアドレスの場所のリストのファイルを予めWEBサーバーやファイルサーバーなどの既存のサーバーのディスク領域に格納しておく。

**【００１０】**

ＩＰアドレスの場所を示すリストのファイルは、改ざんされることを防止するため、管理者以外の一般ユーザーからは書き込みできないようにしておく。

**【００１１】**

各クライアントコンピュータが自身のＩＰアドレスを格納したファイルを書き込む領域は、他のコンピューターによって改ざんされることを防止するため、管理者及び自分のコンピューターからは書き込みできるが、それ以外の他のコンピューターからの書き込みはできないようにしておく。

**【００１２】**

ＩＰアドレスの場所のリストを格納しておくサーバー上の領域および、各クライアントコンピュータが自身のＩＰアドレスを格納したファイルを書き込むサーバー上の領域は各々のクライアントコンピュータから読み出し可能な状態にしておく。

**【００１３】****【発明の実施形態】**

コンピュータネットワーク内のクライアントコンピュータがネットワークに接続した後、割り当てられたＩＰアドレスまたは、予め設定された固定のＩＰアド

レスをファイルに格納し、IPアドレスの場所のリストに自クライアントコンピュータ用に定義されているディレクトリ名と同一のWEBサーバーやファイルサーバーなどの既存のサーバー上のディレクトリ内に書き込む。

#### 【0014】

自身のIPアドレスをIPアドレスの場所のリストに定義されているサーバーのディレクトリ内に書き込んだ後、IPアドレスの場所のリストを読み出し、このリストから他のクライアントコンピュータのIPアドレスの場所を取得し、この場所から他のクライアントコンピュータのIPアドレスの入ったファイルを読み出すことでIPアドレスを知ることができ、同様に自身のIPアドレスもIPアドレスの場所のリストに定義されているディレクトリに書き込まれているため、他のクライアントコンピュータから検出可能となり、お互いに検出したIPアドレスを使って、自クライアントコンピュータから他のクライアントコンピュータに対して接続要求を出したり、他から接続要求を受けてクライアントコンピュータ同士のデータ通信が可能になる。

#### 【0015】

##### 【実施例】

実施例としてインターネットを例にとり、システム構成を示す図1、IPアドレスの場所のリスト例を示す図2、IPアドレスを格納したファイルの例を示す図3、および手順の概略フローチャートを示す図4を用いて説明すると、図1においてクライアントコンピュータ1はプロバイダBを経由してインターネットに接続、クライアントコンピュータ2はプロバイダCを経由してインターネットに接続しており、接続の際にIPアドレスを各プロバイダから割り当てられている(図4の10)。

#### 【0016】

各プロバイダのディスク領域には通常、加入者にホームページのためのディスク領域を確保してあり、加入者は自分用に確保されたディスク領域にはFTP (File Transfer Protocol) などを使って容易に自分のコンピュータ内で作成したファイルを転送、書き込むことができ、他のクライアントコンピュータからは、HTTP (Hyper Text Transfer Pr

o t o c o l) や F T P などのプロトコルを用いて容易に読み出すことができる。

#### 【0017】

クライアントコンピュータ1はプロバイダBのディスク領域4の p r o v i d e r \_ B . c o . j p / u s r / B B B / ディレクトリ42に、クライアントコンピュータ2はプロバイダCのディスク領域5の p r o v i d e r \_ C . c o . j p / u s r / C C C / ディレクトリ52に、それぞれ書き込みが許可されているものとする。

#### 【0018】

プロバイダAのディスク領域3の p r o v i d e r \_ A . c o . j p / a l l U s e r / ディレクトリ32のファイル名 I P L I S T に図2のようにクライアントコンピュータ1やクライアントコンピュータ2などのデータ通信に参加するコンピュータの I P アドレスの書き込み先の場所42、52を定義した I P アドレスの場所のリスト31を予め格納しておく。

#### 【0019】

クライアントコンピュータ1、およびクライアントコンピュータ2で本発明の方法に基づいて作成された接続用アプリケーションプログラムを起動し、このプログラムが自クライアントコンピュータに割り当てられている I P アドレスを検出する(図4の11)。

#### 【0020】

クライアントコンピュータ1とクライアントコンピュータ2で動作している接続用アプリケーションプログラムは自クライアントコンピュータに割り当てられた I P アドレスを検出した後、ファイル名 I P の中に図3の41、51のように自クライアントコンピュータの I P アドレスを格納し、F T P などのプロトコルを使って、書き込みが許可されていて I P L I S T に定義されているディスク領域4の42または、ディスク領域5の52に各々ファイル転送して書き込む(図4の12)。

#### 【0021】

I P アドレスを格納したファイルを転送した後、プロバイダAのディスク領域



3にあるIPアドレスの場所のリスト31をFTPやHTTPなどのプロトコルを使って取得する(図4の13)。

#### 【0022】

取得したIPアドレスの場所のリスト31からクライアントコンピュータ1やクライアントコンピュータ2のデータ通信に参加するクライアントコンピュータのIPアドレスがある場所42、52を知ることができる。

#### 【0023】

各クライアントコンピュータのIPアドレスの場所42、52からHTTPのプロトコルを使って自クライアントコンピュータ以外のIPアドレスのファイルを取得し、IPアドレスのファイルに格納されているIPアドレスに対して接続を試みる(図4の14、15)。

#### 【0024】

同じネットワーク内に他のクライアントコンピュータからの接続要求待ちの状態にあるクライアントコンピュータがあれば、接続が成立する。

#### 【0025】

接続が成立したら、ユーザ名などの情報交換を行いクライアントコンピュータ間のデータ通信が可能になる(図4の16、17、18)。

#### 【0026】

その後、他のクライアントコンピュータからの接続要求を待ち、接続する相手を増やすことができる(図4の19)。

#### 【0027】

IPアドレスのファイル41、51から読み出したIPアドレスに対して接続を試みる際、ポート番号は固定に決めておくか、IPアドレスのファイル41、51にIPアドレスと共にポート番号を格納しておく方法もある。

#### 【0028】

各クライアントコンピュータのIPアドレスを公開することによる危険性を軽減するために、IPアドレスの場所のリスト(31)や自クライアントコンピュータが書き込むIPアドレスの内容(41、51)を暗号化しておく方法もある。

**【0029】**

データ通信を終了する際には、接続が成立した相手全員に対して終了メッセージを送信することにより、相手にデータ通信終了を知らせることができる（図4の20）。

**【0030】**

上記のようにIPアドレスを置く場所を固定にし、その場所の情報からIPアドレスを導く手段を提供することによって、固定のIPアドレスを持たないクライアントコンピュータも固定のIPアドレスを持つクライアントコンピュータと同じようにデータ通信ができるようになる。

**【0031】****【発明の効果】**

ネットワーク接続用のアプリケーションプログラムなどに本発明の方法を利用すると、データ通信を行う各クライアントコンピュータが一つのサーバーに接続することなく、クライアントコンピュータ同士のIPアドレスを利用したデータ通信が可能になるため、専用のサーバーが不要になり、しかも固定のIPアドレスを持たないクライアントコンピュータも固定のIPアドレスを持つクライアントコンピュータと同等のデータ通信が可能になり、ネットワーク対戦ゲームやチャットなども容易に利用可能になる。

**【図面の簡単な説明】****【図1】**

本発明のインターネットでの実施例のシステム構成を示す。

**【図2】**

各クライアントコンピュータがIPアドレスを格納したファイルを書き込む場所を定義したIPアドレスの場所のリスト例である。

**【図3】**

各クライアントコンピュータが自身のIPアドレスを格納するファイルの例である。

**【図4】**

本発明の実施手順を示す概略フローチャートである。

【符号の説明】

1、2 クライアントコンピュータ

3、4、5 ディスク領域

3 1 I Pアドレスの場所のリスト

3 2 I Pアドレスの場所のリストがあるディレクトリ

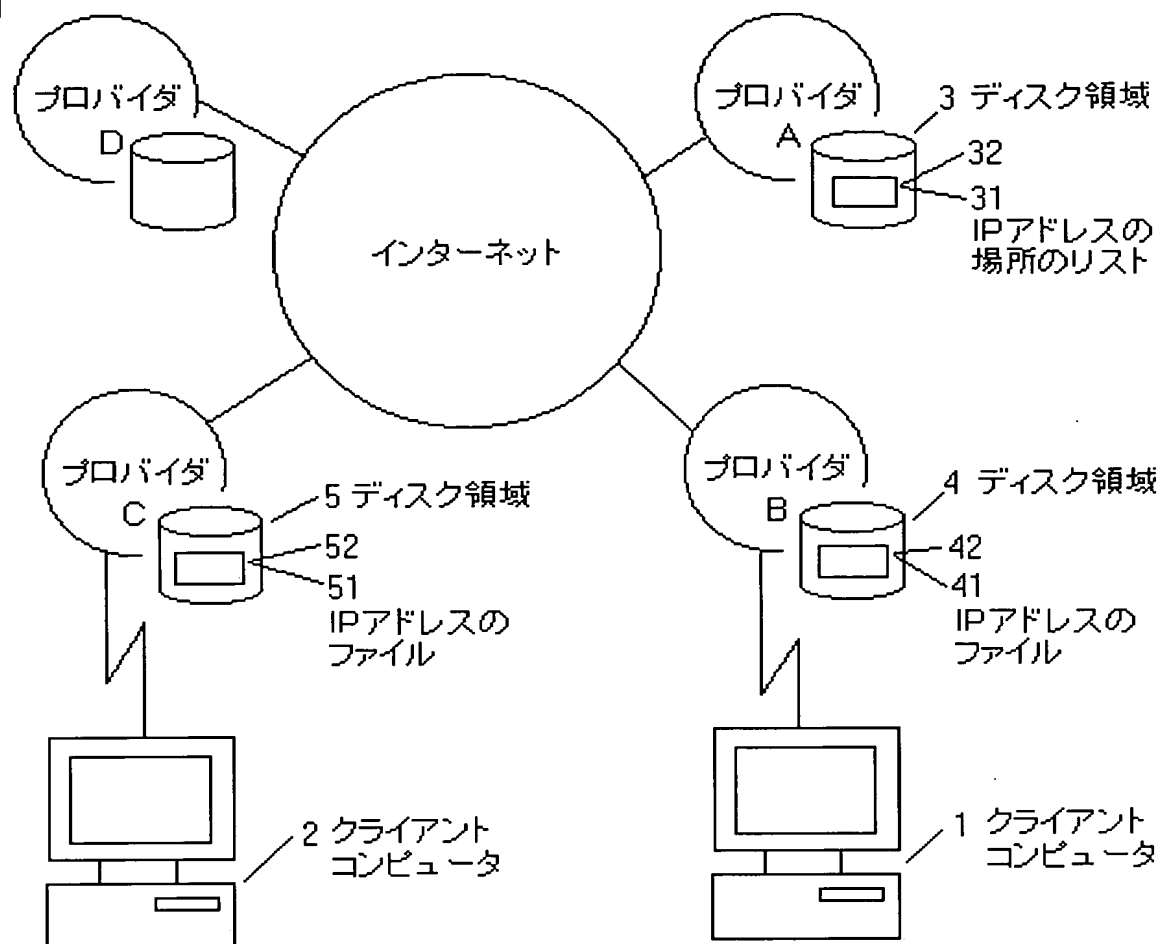
4 1、5 1 I Pアドレスを格納したファイル

4 2、5 2 I Pアドレスを格納したファイルの場所

【書類名】 図面

(1)

【図1】



【図2】

IPアドレスの場所のリスト

ディレクトリ: provider\_A.co.jp/allUser/

ファイル名: IPLIST

provider\_B.co.jp/usr/BBB/ 42

provider\_C.co.jp/usr/CCC/ 52

provider\_D.co.jp/usr/DDD/ 31

【図3】

IPアドレスのファイル

ディレクトリ: provider\_B.co.jp/usr/BBB/

ファイル名: IP

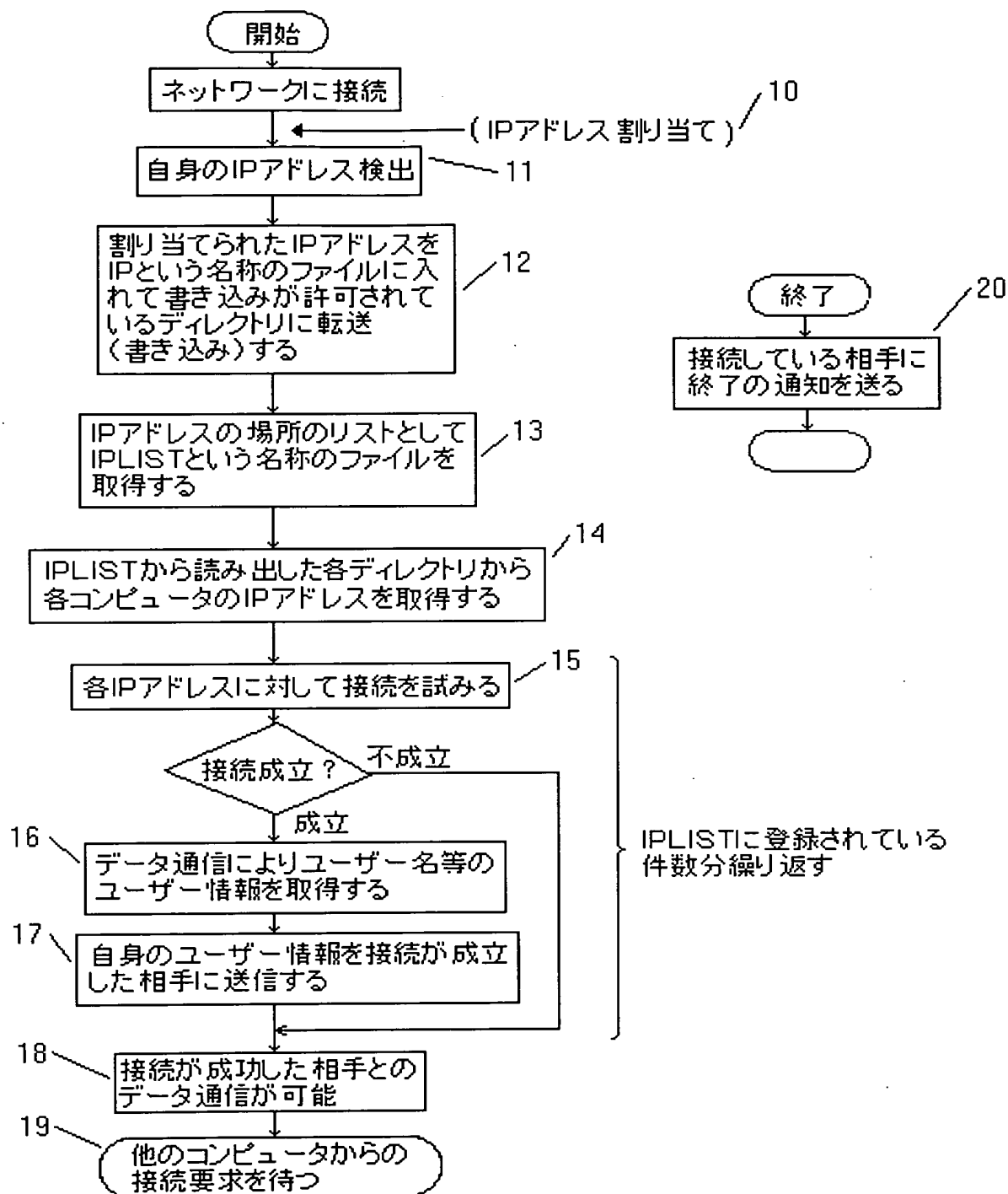
IP:192.100.10.20

ディレクトリ: provider\_C.co.jp/usr/CCC/ 52

ファイル名: IP 51

IP:172.200.11.20 51

【図4】



【書類名】            要約書

【要約】

【課題】    固定のＩＰアドレスを持たないクライアントコンピュータをネットワーク内でのクライアントコンピュータ同士のデータ通信を可能にするためには、各クライアントコンピュータが一つの専用サーバーコンピュータに接続するか、利用者が電話等を利用して相手にＩＰアドレスを教える必要がある。

【解決手段】

コンピュータネットワーク内の各クライアントコンピュータが自身のＩＰアドレスを書き込む場所を定義したＩＰアドレスの場所のリスト３１を予め特定のディレクトリ３２に格納しておき、クライアントコンピュータ１、２がネットワークに接続したとき、割り当てられたＩＰアドレスまたは、予め設定された固定のＩＰアドレスをファイル４１、５１に格納し、ＩＰアドレスの場所のリスト３１に定義されているディレクトリ４２、５２に書き込むことによって、各クライアントコンピュータがＩＰアドレスの場所のリスト３１から他のクライアントコンピュータのＩＰアドレスが検出可能になり、クライアントコンピュータ同士のデータ通信ができるようになる。

【選択図】            図１



## Japanese Specification

Title of Invention:

Method of communication used IP address by means of to fix a directory of IP address, even if IP address is not fixed in the network

Name of Inventor: Hiroyuki Sakamoto

Telephon No. : 0467-83-9719

E-Mail: cafe@mars.planet.ne.jp

Japanese Specification are 6 sheets hereafter

## TITLE OF INVENTION

ネットワークにおいて固定のＩＰアドレスがなくてもＩＰアドレスの場所を固定にすることによりＩＰアドレスを使った通信を行う方法

## CROSS-REFERENCE TO RELATED APPLICATION

特になし

## STATEMENT REGARDING FEDERALLY SPONSORED RESEARCH OR DEVELOPMENT

特になし

## REFERENCE TO A MICROFICHE APPENDIX

特になし

## BACKGROUND OF THE DISCLOSURE

### 1. Field of the Invention

本発明は、ＩＰ(Internet Protocol)アドレスを利用したコンピュータネットワークにおけるピアツーピア通信に関するものである。

### 2. Description of the Prior Art

チャットサーバーやゲームサーバー、その他のロビーサーバーを稼動しておき、コンピュータがＩＰアドレスを用いてネットワーク経由で他のコンピュータと通信を行うときは、コンピュータは目的に適したサーバーにアクセスする。

このサーバーが一方からのデータを他方へ送る。

この方法は、常にサーバーを稼動しておくために、高いコストと労力を必要とする、という問題を抱えている。

他の方法では、ＩＰアドレスを問い合わせるためのパケットデータをキャスティングすることにより、遠隔のコンピュータのＩＰアドレスを獲得している。

この方法は、トラフィックを増大させるという問題を抱えている。

## BRIEF SUMMARY OF THE INVENTION

この発明を利用したプログラムのポイントは、ＤＨＣＰ(Dynamic Host Configuration



Protocol) サーバーから不定のIPアドレスを受け取る場合でも、ネットワークに接続したときにIPアドレスを入れたファイルを決められたディレクトリに格納することにより、他のコンピュータのIPアドレスの獲得と自身のIPアドレスを相手に与えることが可能になり、通信を可能にすることである。

予め、IP FILEのディレクトリをDIRECTORY PATH LISTに登録しておき、DIRECTORY PATH LISTを記憶装置の決められたディレクトリに格納しておく。

IP FILEは、このプログラムが動作しているコンピュータのIPアドレスを含んでいるファイルである。

DIRECTORY PATH LISTはこのプログラムが動作している各コンピュータがIP FILEを格納するディレクトリ名を含んでいるファイルである。

IP FILEとDIRECTORY PATH LISTはネットワーク経由で他のコンピュータから読み込めるようにしておく。

このプログラムにIP FILEとDIRECTORY PATH LISTのファイル名をインプットする。

このプログラムに記憶装置上のDIRECTORY PATH LISTのディレクトリをインプットする。

この発明を利用したプログラムは、ネットワークに接続するとき毎回、自身のIPアドレスを入れたIP FILEをDIRECTORY PATH LISTに登録されている自分用のディレクトリと同じ記憶装置上の場所へ格納する。

このプログラムは、DIRECTORY PATH LISTに登録されている記憶装置上のディレクトリから他のコンピュータ用のIP FILEを読み出すことにより、ネットワークに接続している他のコンピュータのIPアドレスを獲得することが可能になる。

最終的に、コンピュータがDHCPサーバーから不定なIPアドレスを受け取る場合でも、ロビーサーバーなしでネットワークを経由したコンピュータ同士の通信が可能になる。

## BRIEF DESCRIPTION OF THE DRAWINGS

FIG.1 インターネットの場合であり、本発明を利用したプログラムがコンピュータ(1, 2)上で稼動しており、このコンピュータ(1, 2)は各プロバイダーを経由してインターネットに接続可能である。

FIG.2 各コンピュータ(1, 2)がIP FILE(41, 51)を格納するURL(Universal Resource Locator)とディレクトリを入れたDIRECTORY PATH LIS

Tの例である。

FIG. 3 インターネットに接続しているコンピュータのグローバルIPアドレスを入れたIP FILEの例である。

FIG. 4 本発明を使ったプログラムのフロチャートである。

#### DETAILED DESCRIPTION OF THE INVENTION

インターネットの場合；

事前に、インターネットプロバイダーAのコンピュータ内の記憶装置（3）にIPLISTと名付けたDIRECTORY PATH LIST（31）のファイルを格納しておき、DIRECTORY PATH LIST（31）には各コンピュータがインターネットに接続するときにIP FILE（41, 51）を格納するURL(Universal Resource Locator)とディレクトリを入れておく。

DIRECTORY PATH LIST（31）とIP FILE（41, 51）の名前、DIRECTORY PATH LIST（31）のURLとディレクトリ名を本発明を利用したプログラムにインプットしておく。

DIRECTORY PATH LIST（31）とIP FILE（41, 51）は他のコンピュータからの読み込みを許可されている。

そして、IP FILE（41, 51）はプロバイダーによって記憶装置を割り当てられることにより、各コンピュータからの書き込みを許可されている。

本発明を利用したプログラムを起動する。

このプログラム（FIG. 4）がインターネットプロバイダーのコンピュータに接続（10）すると、このプログラムは自身のグローバルIPアドレスをIP FILEに書き込み（11）、そしてIP FILEをFTP(File Transfer Protocol)を利用してインターネットプロバイダーのコンピュータ内の記憶装置に格納する（12）。

グローバルIPアドレスはインターネットプロバイダーのDHCPサーバーから受け取る。

IP FILE（41, 51）を格納するURLとディレクトリはDIRECTORY PATH LIST（31）に登録されている自分用のディレクトリと同一である。

このプログラム（FIG. 4）は、DIRECTORY PATH LIST（31）を読み込み（13）、各コンピュータがIP FILEを格納するURLとディレクトリを獲得（14）する

このプログラムはDIRECTORY PATH LIST（31）を読み込むことによ

って得たURLとディレクトリ（42, 52）から他のコンピュータ用のIP FILE（41, 51）を読み込む（15）。

このプログラムはIP FILE（41, 51）を読み込むことで他のコンピュータのグローバルIPアドレスを獲得する。

このプログラムはグローバルIPアドレスを使うことにより、他のコンピュータと通信を行うことが可能になる（16）。

## CLAIM

### 特許権請求項：

ネットワークにおいて、たとえIPアドレスが固定でなくても、IPアドレスの場所を固定にすることにより、IPアドレスを使った通信を可能にする方法；

事前にDIRECTORY PATH LISTを記憶装置内に格納しておく；

このDIRECTORY PATH LISTにはネットワークに接続する各コンピュータがIP FILEを格納するディレクトリ名を入れておく；

IP FILEは記憶装置内のファイルであり、コンピュータがネットワークに接続したときのIPアドレスが入っている；

DIRECTORY PATH LISTとIP FILEは各コンピュータから読み込み可能にしておく；

本発明を利用したプログラムをスタートしたとき、このプログラムは自身のIPアドレスをIP FILEに書き込み、このIP FILEをDIRECTORY PATH LISTに登録されている自分用のディレクトリと同一の場所へ格納する；

次に、このプログラムはDIRECTORY PATH LISTを読み込むことにより、他のコンピュータがIP FILEを格納しているディレクトリを獲得する；

そして、このプログラムは他のコンピュータが格納したIP FILEを読み込んで、IP FILEから得たIPアドレスを使って他のコンピュータとの通信を試みる；

同様に、このプログラムが動作している他のコンピュータに対して、自身のIPアドレスを伝えることが可能になる；

このプログラムが動作している他のコンピュータとの通信に成功すれば、そのコンピュータとの通信が可能になる；

最終的に、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバーからIPアドレスを受け取ることで固定のIPアドレスを持たないコンピュータ同士でも、本発明を利用したプログラムを利用することによって、ロビーサーバーなしにネットワーク内での通信が可能になる；

以上のごとき方法。

## ABSTRACT OF THE DISCLOSURE

この発明を利用したプログラムのポイントは、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバーから不定のIPアドレスを受け取る場合でも、ネットワークに接続したときにIPアドレスを入れたファイルを決められたディレクトリに格納することにより、他のコンピュータのIPアドレスの獲得と自身のIPアドレスを相手に与えることが可能になり、通信を可能にすることである。